

中国経済史学会の動向

長野 暹（佐賀大学名誉教授）

李 毅（中国社会科学院世界経済
政治研究所研究員）

2006年7月に広東省南昌の南昌師範大學で第5回中国経済史学会の大会が開催された。中国の経済史研究を窺うことにおいて有益であるとみなされるので、同学会について紹介しよう。

経済発展に伴って、学術研究の体制も進展した。中国経済史学会の設立の動きは1980年代初期に始まった。北京、上海、広東、湖北、厦門、四川、吉林などの研究者が連絡をとり合い、中国経済史学会の設立に向けて協議を始めた。1984年に中国社会科学院の経済研究所・歴史研究所・近代史研究所・世界経済政治研究所と北京大学、中国人民大学、北京師範学院、財政部財政科学研究所、中国人民銀行金融研究所など16機関の研究者らによって経済史学会の設立についての本格的な検討が進められた。2か年にわたる連絡と調整を経て、1986年12月に河北省廊坊市で全国から108人が参加して中国経済史学会の設立大会が開かれた。

この設立大会で、設立主旨と会則が採択され、会長に嚴中平氏、副会長に王忍之氏ほか7氏を選び、理事87人を選出した。秘書長に魏金玉氏が選ばれた。分科会は中国古代経済史分会、中国近代経済史分会、中国現代経済史分会・外国経済史分会の3分会が設けられた。3分会それぞれの会長が選出された。

大会の報告では、まず会長が中国経済史研究における欠点と不足面を指摘し、それらを克服するための展望を述べた。次いで3つの基調報告があった。1つは文献学・考古学・計量経済学・社会学など7分野における中国の研究方法、2つはこの30年間の中国の経済状況に関するもの、3つは西洋における経済史研究動向についての報告であった。この大会によって、中国経済史

学会が本格的に活動を開始した。

第2回大会は1991年6月に河南省鄭州市で行われた。参加者は100余名であった。基調報告は「中国経済史の回顧と展望」の論題で行われた。中国経済史の研究が着実に発展していると指摘した。古代経済史部門では人口、農業生産、手工業、商業、貨幣経済などの分野の研究が進み、近代経済史部門では中国近代化の問題について多方面にわたって検討が進み、現代経済史部門では革命根拠地、土地改革、社会主義経済の発展問題などの研究が発展し、外国経済史研究では各国の第2次世界大戦後の経済発展についての研究の深まり、また、地域経済史・民族経済史・辺境経済史の研究も行われるようになったことを指摘した。

1993年10月11日から15日にわたって、湖南省大庸市で130余人の参加で大会が開かれた。この大会で会則の改正が行われた。分会を専門委員会とし、分会長を主任、副会長を副主任と改め、専門委員会の主任が学会の副会長を兼ね、秘書長も学会の副秘書長を兼務することになった。それぞれについて選出がなされた。古代経済史の部門では法律、商業、貿易が議論され、分科会では清朝期における食料生産について議論がなされた。近代経済史の部門では、中国の近代化における伝統的要素と近代化の関わりについて議論が集中した。また、農業、工業、企業管理、商工業などについて議論がなされた。現代史分野では新中国建国初期における新民主主義経済形態の評価に関して議論が集中した。

1996年6月29日から7月3日にわたって、中国経済史学会と厦門大学によって福建省武夷山市で100余名の参加で大会が開かれた。大会の主要テーマは「中国伝統社会における商品経済と市場問題」であった。この大会で中国海洋社会経済史、民族経済史の部会設置が提起された。

1998年9月29日から23日にかけて、中国経済史学会と上海社会科学院によって上海市で大会が開かれ、100余名が参加した。大会テーマは「城市経済史」であった。学会顧問の呉承明氏が経済史研究の現状について報告を行い、研究が進展している状況を指摘した。大会テーマに関しては、学術顧問の張仲礼氏が「中国近代城市発展問題に関する研究回顧」について述べた。その後、城市発展史問題について討議が行われた。

2000年8月14日から17日にかけて、中国経済史学会と華中師範大学・中南財経大学・湖北大学によって、湖北省武当山市で大会が100余名の参加で開かれた。大会テーマは「経済組織と市場発展」であった。この問題に関する討論を深めるために、商人組織と市場発展、企業制度と中国の早期市場発展、現代中国市場と世界経済の3分科会を設けて討議が行われた。

2002年4月19日から23日にかけて、中国経済史学会と山西大学経済管理学院とで、山西省太原市で大会が開かれた。116名の参加者があった。大会のテーマは「市場発展と区域経済の発展」であった。市場発展問題、区域経済問題、経済発展と経済のグローバル化問題について討議が進められた。

2004年8月17日から18日にかけて、中国経済史学会と西南財経大学、中国社会科学院経済研究所とで四川省成都で大会が開催された。120余名が参加した。この大会で新しい理事が選ばれた。会長に薫志凱氏、副会長に陳支平氏ほか3名、秘書長に劉蘭兮氏を選び、また、中国古代経済史専門委員会、中国近代経済史専門委員会、中国現代経済史専門委員会の会長も選出された。顧問と名誉会長が推薦された。大会テーマは「経済発展と成長」であった。会長の薫志凱氏が「新中国の経済成長と発展の段階的探求」について報告を行った。その後、参加者の討議が行われた。

2006年7月12日と13日に中国経済史学会と江西師範大学、中国社会科学院経済研究所とで、湖南省南昌市で学会が開かれた。140余名が参加した。薫志凱氏が中国の経済史研究の動向と今後重点的に研究すべき課題について報告を行った。また、各専門委員会ごとに、研究主題について報告がなされた。中国における農民、農業・農村問題、地域社会と国内市場、社会変化と経済の全地球化、社会経済発展における政府の役割などが研究課題として論じられた。この大会に当たって、古代経済史、近代経済史、現代・外国経済史の分野ごとに大会に当たって120の論文が提出され、論文集にまとめられた。現代・外国経済史部門の論文の内容を見れば、7論文は外国経済史関あり、19論文は中国に関するものである。